

## 日中国交回復期の愛知大学と中国との「新証言」

我心の師、穂積七郎先生を偲んで

豊橋市 伊藤般展

(前略)

一九七二年の日中国交回復直前、穂積七郎先生は、周恩来総理から密かに日中国交回復の話を連絡を受けたと話された。この連絡を田中〔角栄〕総理に伝え、田中総理の依頼も受け、国交回復の根回しのため訪中され周恩来総理と会談された。出発の3日前に穂積先生からは是非逢いたいとお電話をいただき、来豊された先生をお迎えし、豊橋市内と南設〔南設楽郡〕を一緒に廻った。夜、東京にお帰りを豊橋駅にお見送りするとき先生は「周総理に何かお願いすることはないかね」と尋ねられた。私は「愛知大学の学術交流の実現に協力して欲しい」とお願いした。

当時愛知大学の学長であった細迫〔朝夫〕先生に早速報告し、親書を書いていただいた。これを周総理にお届けしていただくために2人で羽田空港に穂積先生をお見送りした。先生はお約束通り、これを周総理にお渡しくださり一九七三年六月周総理の母校、天津の南開大学に愛知大学が学術交流団の派遣を実現することができた。愛知大学の訪中団は中国語研修の泰斗鈴木沢一郎教授を団長とする4名であった。この経緯については細迫元学長以外御存じない穂積先生の愛知大学日中交流の功績と思う。

(後略)

〔注〕「愛知大学史研究」第一号（二〇〇九年三月）愛知大学東亜同文書院記念センター発行）所載。